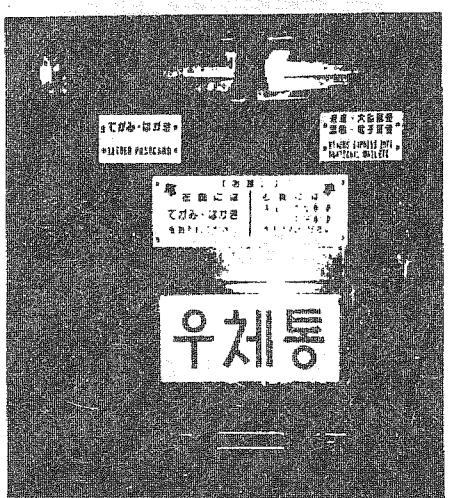


# 韓国 の 旅 (上)

飛田 雄一



全朝教大会の帰りに小倉から神戸まで乗ったフェリーの混雑がうそのようだ。でもほど出

國手続のとき少し手間どつていた青年と一緒になる。デンマークの学生で、専攻を哲学か心理学に変更したのでその間を利用して日本にやつてきたという。ヴァイオリンが得意で上野公園で大道芸をして六ヶ月日本に滞在し、少し韓国に旅行するのだという。以前、上野公園で人形を足で操りながらヴァイオリンをひくのを見た、あれか、と聞くと、「わたしは他のことをしながらすると演奏に集中できない」という。

同じ樹の貢農業の韓国人二人と計四名で意氣投合し食堂に行つたが、出港前で注文もできぬ。五時に出港。さっそく、韓国人に御

禮走になつたビルで乾杯。夕食はビビンバを食べる。最近の田安の影響のためか韓国ウォンはそのままに七百円を八百円に訂正してあつた。それをみて怒つてゐるデンマーク人は友人にもらつたという箸を持ち歩く

エコロジアンでもあつた。

船はかなり揺れる。きしむ音、ドアのバタ

ンと閉る音、物が落ちる音。時にはドーンと体が落ちる感じだ。植民地時代、朝鮮人がもつと小さな船で渡つてきただころはさぞかし大きだつたらうと思つた。渡のためかビルの

ためか、揺れるままに眠りについた。

#

#

#

1990.5.27

1990.5.27

(16) むくげ通信120号

四月末に、四年ぶりに韓国を訪問した。これまで四回いつたが、八三年の濟州島行以外はいずれも、キリスト教関係の会議参加のためで、ほとんど自由行動はできなかつた。この間、神戸学生青年センターを中心として韓国との交流がすすみ、韓国の有機農業などに取り組んでいる農民運動のグループが度々訪問されている。今回の私の訪韓は、この間知り合つた韓国の友人を訪ねる、まさに「友を訪ねて三千里」の旅であつた。

四月二六日、往路は日韓共同切符。神戸からソウルまでの、新幹線、関釜フェリー、セマウル号がセットされていて、一八、六〇〇円だった。「友を訪ねて三千里」の旅は、まではせつがく通運する下関で、元下関駅平連大谷正樹さんとフェリー乗場の近くでお会いした。氏は、「市民戦線」というミニコミを長い間書いていて、「むくげ通信」とも「機関誌交換」の間柄だつた。最近創刊された『海』という同人雑誌が、送られてきたこともあり、是非お会いしたいと、連絡をした。

『朝』六時三〇分をさます。船はまだ揺れているが、よくみると釜山の沖に停泊している。まわりの常連のアジュマ（おばさん）に聞くと、こんなに揺れることはめつたにないといふ。韓国は五度目だが釜山は初めてだ。デッキに出ると写真で見た「釜山港に帰れ」の五六島が見える。入管事務所が開いてから上陸ということ、まだ時間があるので船内をララブする。テレビのある二等船室で韓国のおユースをみたり、和室をのぞいたり、ボタンがとれたので食堂のアガシ（お嬢さん）に針と糸を借りつけたりした。食堂に行くと日式朝食が六百円であつたが、つまらないのでやめた。

八時半、接岸。入管の役人はパスポートを見、コンピューターに名前を人力し、ポンポンとハンコをおしてパスポートを返すとき子ラツと画面を見た。一瞬手が止る。どうも、一九七八年の日韓都市産業伝道協議会に参加した時の記録(?)が出てきたらしい。当時、反政府的な文書を持ち帰つたとして、先に帰国した仲間が金浦空港で足留めをされたことがあり、その後三年間、私にもビザが出なかつたが、どうもその件らしい。パスポートをもともとある、どこかに電話をし、そして席を立つてどこかへ。結局なんの問題もなかつたが、その役人が戻つてくるまでの二、三分が、長く感じられた。

税關を通り、銀行で両替をして（一・四・も会長の朴才一さんらが訪問された）とともに三七)外に出ると十数年来の釜山の友人・イ・イ・り、交流が続いている。昨年、発表されたムさんが迎えにきてくれている。厚かましくも、駅まで送つてもらい、朝御飯を御馳走になり、日本で予約できなかつた帰りの飛行機の切符の予約まで頼んで、十時にセマウル号に乗る。韓国で列車に乗るのも初めてだ。

ハンギョレ新聞（一五〇ウォン）と朝鮮日報（二〇〇ウォン）を賣い乗り込む。座席は新幹線のグリーン車並にゆつたりして快適だ。洛東江にそつて北上するが、その流れはゆつたりでトンネルもなく大陸的である。隣の席の私と同じ歳くらいの歯医者さんは大邱で降りた。次に隣に座つた人に韓国語で話しかけると、分からぬといふ。英語で聞くとシンガポールから来た中国人だといふ。仕事で大邱に来ていてソウルから帰るという。いつしょに食堂車について韓式のランチを注文したがそれがなんと七千ウォン。釜山・ソウル間の運賃が一八、三〇〇ウォンだからかなり高い。狭い食堂車なのに空いでいるのもうなずける。

セマウル号は二時一〇分、定刻にソウル駅に着き、ソウルで三泊する文化旅館へ。そこで韓国の児童文学研究のために留学中の仲村修さんとおち会い、いつしょに市庁の近くにある「ハンサルリム・モイム」の事務所にいく。ハンサルリムとは、学生センターに何回

夜は、今年二月に青丘文庫と神戸学生青年センターが韓国キリスト教史研究会のメンバーを招いてシンボジウムを開いたが、今回は私がその研究会の事務所を訪問した。また、夜遅くまでワイワイと飲みしゃべり、文化旅館に帰るという一日だった。明日は四月一九日、4・19墓地に行こうと思つ。(つづく)